

＜中部本部 2020 年次報告より抜粋＞

中部本部事務局

今春からの全地球的な新型コロナウイルス感染拡大をうけ、中部本部の年次大会は中止となりました。以下に今年の年次大会に予定しておりました年次報告から一部を抜粋して掲載いたします。内容をご一読いただき、技術士会中部本部の活動について会員皆様のご理解とまた今後に向けてのご意見をいただきたいと思います。

第9回 年次報告（通算62回）抜粋

第1号報告 2019年度事業結果

＜ 概 要 ＞

日本技術士会は、平成23年3月29日文科科学省から公益社団法人化の許可を得て、中部支部が中部本部に改正され、新たな組織活動が展開されてきました。この公益社団法人活動では、如何に社会発信による貢献を果たすかで社会から好評価が得られることを目指してまいりました。

今、正に産業界における「第4次産業革命（ソサエティ5.0）」では、出遅れている現状脱皮を模索するところですが、PE（プロフェッショナルエンジニア）にはこの舞台での活躍が期待されています。これは、7月1日に全面施行されました「日本産業規格（JIS）」にも盛り込まれましたように、「標準化の対象が、ものづくり技術から、サービスやデータ」ように、新しい産業標準化法となりましたが、今までに無かった技術背景への対応が、社会から求められている状況です。

公益社団法人日本技術士会中部本部活動は、地域の会員のための活動から、社会への発信によって、PEらしい貢献を求められ、社会のニーズに応えられる体制整備が必要です。

事業展開

- 1) 文科科学省による技術士制度検討特別委員会で「技術士制度の見直し」が議題となり、検討が開始されました。中部本部でも、「CPD活動」等で本質的な視点での見直しを開始しておりますが、建設系協議会ホームページへの登録制度活用にみられます「CPD活動登録」の充実等で更なる展開を図りました。
- 2) 中部本部活動の活性化への基本は、公益社団法人日本技術士会としてのガバナンスを考慮した活動であり、基本表明に掲げる「PE 団体に相応しい活性化」を盛り込んだ内容を更に進めました。
- 3) これらの上で、当年度も引き続き中部管区行政機関等との連携強化に努め、各委員会、各分会、各県支部等の活動グループを通じて、他の専門家機関や各団体との連携にも積極的に取り組み、地域貢献への道を拓いてきました。
- 4) 私ども公益社団法人日本技術士会中部本部では、昭和34年6月1日を中部本部（支部）創立記念日に定めております。例年通り、土曜日の『6月1日（土）』には、“技術士制度普及に関する記念事業”を夏季例会として開催しました。
- 5) 活動組織は、前期において活動軸を次のように発信しました。
〔地域委員会〕（当本部の活動に対する、核となる組織）
外部対応—企画委員会、社会貢献委員会、活用促進委員会、独立技術士交流委員会、青技術士交流委員会
内部対応—倫理委員会、総務委員会、広報委員会、試験業務支援委員会、研修委員会、修習技術者支援委員会
〔技術部門別組織〕（科学技術・部門に関する対応組織で、地域性に基づいた合同部会）
機械部会、航空部会、電気電子情報工学部会、化学部会、建設部会、上下水道部会、経営

工学部会

〔県支部〕（各県単位での支部活動）

愛知県支部、岐阜県支部、三重県支部、静岡県支部

なお、これら活動軸は、固定するものではなく、活動軸としています。

- 6) 中部本部活動としての活性化策の中心は、「中小企業への技術的支援」、「大学など教育機関と地元中小企業との交流」、「専門家団体との連携」等を考え、各活動グループの活動成果により地域の信頼を得ることです。そのことが、技術士の社会的知名度獲得に通じます。

表1、表2では2019年度に実施した主な活動について概要を示します。

表1 2019年度における主な活動

令和元（平成31）年度は、外部への認知度向上はじめ設定した事業展開の基本方針を踏まえ、中部本部傘下四県支部、委員会そして部会の活性化を目的として事業展開を推し進めた。

① 年次大会・役員会・委員会活動

- ・第8回年次大会は7月20日（土）に開催しました。出席者は101名。
- ・本部長を含む37名で構成された中部本部役員会を6回開催（一回は臨時）した。
- ・委員会は、倫理委員会10回、総務委員会5回、企画委員会9回、CPD委員会5回、修習技術者支援委員会3回、青年技術士交流委員会8回、独立技術士交流委員会6回、広報委員会7回、活用促進委員会4回、防災支援委員会5回、試験業務支援委員会4回、PL実践研究小委員会5回、理科支援小委員会4回開催。以上、計75回開催。

② 行事

- ・CPD委員会担当のセミナーは夏季・秋季・冬季の3回開催（春季は中止）。講師・テーマ選定は、電気電子情報部会、上下水道部会、青年技術士交流委員会、倫理委員会、機械部会が担当。
- ・修習技術者支援委員会は、中部本部修習技術者研究業績発表会を開催。
- ・企画委員会は、技術士第一次・第二次試験の合同合格者説明会を開催。
- ・社会貢献（防災支援）委員会は、「SDGsに関する講演会」を単独に初開催
- ・建設部会は、「維持管理と防災に関する講演会」を5年連続して開催。
- ・以上を含め、委員会、部会による講演会は39回、見学会は3回開催した。

③ その他

- ・統括本部主催のWEB中継講演会に19回参加。
- ・企画委員会は、日本弁理士会東海支部との共同研究会を開催。
- ・倫理委員会は、テクノロジーカフェを11回開催。通算135回開催。また、教育促進小委員会の倫理教育等は、名古屋大学、岐阜大、鈴鹿高専等、12の大学・高専で実施した。
- ・理科支援小委員会は、理科実験授業研究会を2回開催。小・中学校での特別授業を16回実施。
- ・外部依頼対応

技術士紹介依頼 6件、指導技術士紹介依頼 3件、人材紹介依頼 0件

- ④ 登録グループとして、「よろず科学技術相談所」は、業務獲得のため11回の定例会を開催し、11件の技術相談に応じ、4件の受注をみた。

表2 活動会合の回数

	年次大会 (全体会合)	役員会	委員会	講演会 見学会	その他	計
回数	1	6	75	42	44	168

以下 2019年度事業結果詳細

1. 2019年度 中部本部年次大会 (第8回-通算61回)

日 時：2019年7月20日(土)

場 所：名鉄ニューグランドホテル

会員数：正会員 1,229名、準会員 383名(平成31年3月31日現在)

出席者数：95名

報告事項：

(1) 2018年度事業報告

(2) 2019年度事業計画(案)並びに収支予算

(3) 中部本部の運営における個別事項に関する手引き

基調講演：

演 題：「IとCの革新で人々に安心な未来を！～情報通信技術の潮流～」

講 師：名古屋工業大学 理事・副学長 内匠 逸 氏

懇親会：会員54名、講師・来賓6名が参加し、交流を深めた。

2. 統括本部連携事業

2020年度全国大会(愛知・名古屋)準備委員会を3回、実行委員会を5回、式典小委員会を1回開催した。

3. 中部本部講演会等の報告

3.1 夏季講演会

日 時：令和元年6月1日(土) 13:20~16:50

場 所：ウインクあいち 1003室

参加者：90名

講演会テーマ：～持続可能性の時代と次の震災について考える～

講演1：「持続可能性の社会に」

講 師：中日新聞 論説委員 飯尾 歩 氏

講演2：「次の震災で日本を終わらせないために本当のことを話してみよう」

講 師：名古屋大学 減災連携研究センター センター長 教授 福和 伸夫 氏

3.2 秋季講演会

日 時：令和元年9月7日(土) 13:20~16:50

場 所：名古屋工業大学 NITch Hall

参加者：87名

講演会テーマ：「連携が生み出す成果とは」～大学の地域連携から世界規模の連携まで～

講演1：岐阜大学における産官学連携の取り組み

講 師：岐阜大学副学長(産官学連携担当)工学部 教授 王 志剛 氏

講演2：人類が初めて見たブラックホールの姿

講 師：国立天文台 教授 同水沢 VLBI 観測所所長 本間 希樹 氏

3.3 冬季講演会

日 時：令和元年11月30日(土) 13:20~16:50

場 所：名古屋市都市センター11F 大研修室

参加者： 65名

講演会テーマ：「改めて問う！！ “倫理” ってなに？」

～技術と時代の変化の中の技術者倫理～

講演1：技術の創造性：技術の哲学と倫理

講師：東京大学名誉教授 村田 純一 氏

講演2：「技術士倫理綱領とその解説」は今の社会に通用するのか

～前期倫理委員会での議論より～

講師：統括本部倫理委員会綱領小委員会 委員長 渋谷 高広 氏

質疑応答 ～会場全体議論～「技術と時代の変化が技術者に求めること」

司会：中部本部倫理委員会 委員長 比屋根 均 氏

3.4 春季講演会（コロナウイルスの感染症の拡大の影響により中止、次年度に延期とした）

日時：令和2年3月7日(土) 13:20～16:50

場所：名古屋工業大学 NITch Hall

講演1：低温プラズマを道具として使いこなす為には

～プラズマの生成とプラズマの表面作用の原理～

講師：名古屋大学 低温プラズマ科学研究センター 特任教授 石川 健治 氏

講演2：最先端の低温プラズマの応用紹介

講師：名城大学 理工学部 電気電子工学科 准教授 竹田 圭吾 氏

3.5 第12回修習技術者業績研究発表会

開催日時：2020年2月15日(土) 13:30～17:00

場所：中部大学名古屋キャンパス（鶴舞）三浦記念会館 6階大ホール

参加者：26名

修習技術者 発表者の内訳：企業関係論文 3編（玉野総合コンサルタント、中日本建設コンサルタント、オリエンタルコンサルタンツ、大学院生・研究論文 2編（中部大学）、大学生 1編（静岡理工科大学）、合計 6編

本年度は、昨年度に続き、「修習技術者研究業績発表会講演論文集 第7巻」を発刊した。また、昨年度に続き、「優秀論文発表 賞」を授与した。

今年度の受賞者3名（社内人1名、学生2名）の氏名、所属、論文テーマを次に記す。

(1) 陸浦昂起 玉野総合コンサルタント（株）

「生物多様性の保全と水循環機能の回復を目的とした自然公園のゾーニング計画策定」

(2) 佐藤大介 中部大学大学院工学研究科建設工学専攻

「地下空間を有する大都市における浸水解析」

(3) 小松利光 静岡理工科大学理工学部機械工学科

「小型軸流ファンの翼形状最適化によるエネルギー効率の改善」

3.6 日本弁理士会東海支部との共同研究会

弁理士会側からの話題「日本弁理士会としての知財金融への取り組み」により、技術士が技術コンサルのみならず、中小企業の経営にも強くかかわる必要性を感じた。

技術士会側からの話題「開放特許の活用」により、開放特許の有用性と今後のあり方を考える機会を得た。製品開発と知財戦略の立案実行の橋渡し役を弁理士さんとの協業で実施する一つの方向がみえた。

日時：2020年2月14日(金) 15:00～17:00

4. 役員会、委員会

4.1 役員会

中部本部の事業の円滑な実施及び会員活動の活性化を図るために、かつ、法令及び本会の定める諸規程に則り、厳格公正なる事業運営及び会計管理を実施するために開催した。例年同様、各県会員との交流を兼ね各県支部主催の役員会開催についても実施した。

役員会開催：5回， 臨時役員会開催：1回

- 3月30日：中部本部開催
- 6月 8日：静岡県支部開催
- 9月 14日：岐阜県支部開催
- 10月12日：三重県支部開催(中止 ※1)
- 11月30日：三重県支部開催
- (2020) 2月 8日：愛知県支部開催
- 7月 7日：臨時役員会

4.2 倫理委員会

当委員会は「技術士及び技術者の倫理の啓発に関する事項」を所掌事項として、①技術士倫理綱領、倫理審査規則等の管理 ②技術者倫理の啓発 ③技術倫理及び技術者倫理の調査を主要業務としている。倫理 CPD 機会の提供として倫理セミナーを開催した。また、公募による技術者倫理事例研究発表会を開催した。テクノロジーカフェは、例年通り名古屋市が主催する「なごや環境大学」の共育講座として開催した。

倫理セミナー等で講演した内容を文章化し、2018 年度倫理委員会活動報告集の編集を行った。

4.3 総務委員会

当委員会の所掌事項は、本地域本部の秩序・信用の維持、運営管理及び会員の顕彰に関する事項である。

主な業務は、①倫理審査の実施 ②会長表彰の推挙などの会員の顕彰 ③組織、役員選挙、名誉会員等の基本制度の流布 ④地域本部内諸規定の管理（制定、改廃）⑤地域本部、地域組織及び部会の運営に関わる事項の企画 ⑥地域本部内会員の活動グループの登録管理 ⑦地域本部内著作物における本会名称の使用管理 ⑧企業内、大学技術士会、地方団体技術士会等の技術士関連団体との連携 ⑨その他、他の委員会で掌握しない事項等を常設業務として、これらの項目に関して審議検討している。

4.4 企画委員会

例年どおり、新合格者説明会、年次大会等の開催に向けた企画及び準備作業を行っている。今年度の企画委員会の事業は以下のとおりであった。

- 年次大会：7月20日 101名参加
- 弁理士会東海支部との交流会：2月14日開催
- 新合格者説明会：5月18日実施

名古屋工業大学にて実施し、合格者 64 名、また会員技術士 42 名の参加があった。出席の合格者から合格にあたっての短いコメント文を寄せていただき、当日参加の集合写真と合わせて、技術士“ちゅうぶ”第4号の合格者特集に記事を掲載した。

4.5 研修委員会（CPD委員会）

CPD 委員会は、統括本部の研修委員会及び CPD 支援委員会に対応し、技術士等を対象に CPD 事業推進のための研鑽、講演会等諸行事の調査・企画・運営を行った。これによって、会員技術士の自己啓発及び資質の向上を図ると共に一般市民等への社会貢献活動の推進に心掛けた。

また、CPD 委員会担当の講演会は、今年度、夏季、秋季、冬季の3回を実施した。春季講演会は新型コロナウイルスの感染症の拡大に伴い中止し、次年度に繰り越すこととした。

当委員会は統括本部の研修委員会が管轄する「建設系 CPD 協議会のホームページ」へ中部本部 CPD 行事を積極的に掲載した。また、CPD 委員会は、講演会を他の委員会や部会と共催することによって、これら「統括本部における技術士 CPD 発行ルールの手引き」及び「技術士 CPD 行事の統括本部を経由した広報の手引き」の普及・展開に努めてきた。これらの活動を通して、従来の月刊誌「技術士(PE)」及び「統括本部のホームページ」に加え、統括本部管轄の「建設系 CPD 協議会（17 団体所属）のホームページ」への掲載を推進した。

4.6 修習技術者支援委員会

当委員会は例年 2 月に開催する、「修習技術者研究業績発表会」を軸にした委員会活動を実施

している。2019年度も発表原稿を募集し、集まった原稿を「編集委員会」で査読し、必要な修正意見を付して修正依頼した。その後、提出された論文中、論文集への掲載可と判断したものについて、発表会での発表を依頼した。

発表会は2月15日(土)中部大学名古屋キャンパス(鶴舞)三浦記念会館6階大ホールにて行った。さらに、当日発表された6つの論文の中から、令和元年度の「優秀論文・発表賞」を「選考委員会」にて3編選び表彰した。

また、前年度の最優秀論文・発表者には2019年11月9日に京都で開催された第25回西日本技術士研究・業績発表年次大会での論文発表を実施していただいた。

4.7 青年技術士交流委員会

青年技術士交流委員会は、若手会員の研鑽、会員同士の交流を図るとともに、次世代の技術者の啓発を図る目的で、例会、技術同好会等を企画運営している。

本年度は、会員自身の成長につながる発表機会の創生や、新しい技術を研鑽する内容を重視した。同時に、将来の技術者である学生との技術研鑽にも挑戦。会員自身が学びを得られる活動を実施した。

4.8 広報委員会

中部本部の広報誌、「技術士“ちゅうぶ”」第3号(2019年9月)、第4号(2020年3月)を発行した。広報誌は中部本部HPに掲載しており、会員へは同報メールにて周知し、ホームページからダウンロードする方法で配信した。また適宜印刷版としても発行し、関係個所へ配布して中部本部の広報活動の役割の一端となっている。

4.9 活用促進委員会

‘会員の活動機会の確保’および社会貢献を通して「役に立つ」技術士会活動を目指した。

販売促進相談会を開催した。

- ・日時：10月16日(木) 10:00-17:00
- ・場所：ポートメッセ名古屋 第3展示館
- ・東海地区信用金庫協会主催、第14回ビジネスマッチング‘ビジネスフェア2019’にて、応募技術士11名にて展示380社の相談応募企業8社に対しコンサルティング実施。

相談件数 4件(来場者) 12件(訪問企業) 計 16件

来場者・訪問企業への説明回数 来場者計6件、訪問企業計26件

4.9.1 企業内技術士小委員会

企業内技術士が日本技術士会への入会メリットを最大限実感できるような活動をめざしている。「技術士が企業、業種の壁を越えて交流し、技術力を磨き、企業の発展と社会貢献に寄与する」ことを主要課題として、引き続き企業内技術士のスキルや人脈の活用および向上を実現していく。

4.9.2 PL実践研究小委員会

隔月奇数月の第2月曜日にメンバー9名で「法工学入門」日本機械学会編(丸善出版)を用いて研究会を継続。説明者は毎回交代で分かりにくい文章もコメントをつけて詳しく解説し、全員で意見交換をしている。11月18日は「PL実践研究成果発表と弁理士によるPL講演会」を開催した。

4.10 独立技術士交流委員会

隔月偶数月の第4木曜日に例会を実施した。例会は、会員と来賓講師による講演を広範囲なテーマで行って、多くの方々との触れ合いを通して技術的資質と社会文化的な資質の向上、人と組織のネットワーク強化、国際性の涵養等を図ってきた。例会後は懇親会を開催して、情報交換・意思疎通の場とした。また12月の例会は「愛知中小企業家同友会」と合同で開催して、地元中小企業家との交流を図った。

4.11 社会貢献委員会（防災支援小委員会）

中部本部の防災支援活動は、基本的に各県支部活動の中で行う。活動目標項目は(1)防災対策、(2)防災教室、(3)防災セミナー、(4)防災専門家養成、(5)地域活動への参加、(6)自治体との支援協定の締結などである。

2019年度の実施内容

1) 中部本部

- ・10月19日～20日「ぼうさいこくたい2019in名古屋」に参加：愛知県弁護士会および他の士業とともに日本技術士会として協力した。技術士参加6名、集客数約800人
- ・12月18日冬季特別講演会：愛知県支部防災委員会と共催、講演者：遠藤和重氏（国際連合地域開発センター長）、テーマ：「SDGsと国際開発プロジェクトの現状と課題」参加者：46名（会員37名、非会員9名）

2) 愛知県支部

- ・町村支援プロジェクトの推進： 防災を含む技術支援を希望した町村のうち、武豊町、南知多町、設楽町、の3町村を選んで、直接具体的支援要望を示した武豊町に対して具体的な技術アドバイザーとしての活動を2020年度から開始するところまでこぎつけた。

3) 静岡県支部

- ・静岡県版災害時支援活動計画を作成した。（HP掲載）
- ・静岡県支部として改めて防災支援員を応募する。
- ・静岡県災害対策士業連絡会が主催の台風19号の被害箇所（伊豆の国市、函南町）における被災者支援相談会に参加。2月25日上記相談会の反省会を実施。

4) 岐阜県支部

- ・昨年と同様に、1) 支部支援員の募集、2) 町内および小学校での防災教室開催準備、3) 防災士活動（フォローアップ研修参加など）の実施、4) 冊子「家族で考える防災Q&A」の岐阜県版発行を検討した。

5) 三重県支部

- ・2019年11月16日（土）に開催された第39回地域産学官と技術士の合同セミナー（静岡）に三重県支部のオブザーバーの伊藤博氏が参加。
- ・2020年1月11日（土）午後に三重県教育文化会館（津市）で開催する三重県支部第4回セミナーで防災関連の講演として「災害廃棄物処理の事例と課題」（株）ダイセキ環境ソリューション 資源循環事業部長 水野雅庸 技術士（建設部門）を実施。

4.12 試験業務支援委員会

令和元年（2019年）の第二次試験（7月14日、15日）は名古屋工業大学、第一次試験（10月13日）は名城大学天白キャンパスで実施した。

令和元年（2019年）の試験業務運営体制は、技術士試験センターからの通達（平成31年（2019年）1月8日）に基づいて見直しを行い、試験本部の総括管理業務は中部本部が担当し、試験監督業務（主任試験監督員及び監督員の選任、監督員研修、試験室の運営）は外部委託した。

試験業務運営を円滑に行なうために4回の委員会を開催し、外部委託先の代表者も交えて運営に関する役割分担、詳細事項の確認・準備等を行なった。

第一次試験実施日には台風19号が接近したが、愛知会場では前日の夜に通過し、10月13日の試験日は交通機関等への影響もほとんどなく、試験運営を無事に終了することができた。しかし、今後の検討課題として「災害時等のリスク管理」の重要性が改めて認識された。

5. 統括本部関係事業

統括本部関係事業への、中部本部からの参加状況は以下のとおり。

5.1 第61回定時総会への参加

2019年6月13日（木）定時総会に会長表彰該当者はじめ本部会員から数名が参加した。

5.2 第45回技術士全国大会への参加

2019年10月5日（土）～8日（火）に徳島に於いて開催され、当本部会員が多数参加した。

5.3 技術士第二次試験（筆記試験）実施

2019年7月14日、15日の2日間、名古屋工業大学で実施された。試験監督業務を初めて外部委託で実施した。

5.4 技術士第一次試験実施

2019年10月13日、名城大学天白キャンパスで実施された。第二次試験に引き続き、試験監督業務を外部委託で実施した。

6. 統括本部関係諸会議 各種会議のうちm理事会と地域本部長会議について以下に記載する。

6.1 理事会

午後の理事会に先立ち、午前に行われる地域本部推薦理事の懇談会で、地域本部に関わる種々の問題を議論した。理事会の開催日は次の通り。

理事会開催：6回

・5月8日 ・7月2日 ・9月10日 ・11月13日 ・1月9日 ・3月11日

6.2 本部長会議

本部長会議は、日本技術士会の重要施策についての円滑な実施を図ると共に、地域本部相互の連携、ならびに地域本部における活動の活性化に資するため、開催するものである。

- ・第一回 6月8日(土) : 担当 北陸本部 ・大谷本部長
- ・第二回 9月25日(水) : 担当 中部本部 ・平田本部長
- ・第三回 12月2日(月) : 担当 近畿本部 ・田岡本部長
- ・第四回 3月18日(水) : 担当 中国本部 ・太田本部長 (中止 延期)

7. 専門部会の活動

7.1 機械部会（機械部門）

主な活動として統括本部の機械部会例会のWEB中継を実施。

機械部会例会WEB中継（9回 参加総数 82名）

幹事会（3回）

7.2 航空部会（船舶・海洋/航空・宇宙部門）

会員相互の親睦と研鑽を図って隔月の定例会を4回実施した。定例会には他部門の技術士や一般の方々の参加を得た。4回のうち、1回は施設見学（セントレア管制システム見学会）を行った。

7.3 電気電子情報工学部会（電気電子/情報工学部門）

活動として最新技術の習得と相互研鑽を目的として例会を4回、および統括本部電気電子部会、情報工学部会との合同行事としてWeb講演会を6回開催した。参加の会員は、電気電子・情報工学部門の技術士だけでなく、機械、経営工学、建築部門など他部門で当部会に興味のある技術士や一般の方も参加している。部会運営の幹事会（例会前に実施）を6回実施した。第二回全国電気電子部会長および部門代表者会議(12/6(金)PM 東京機械振興会館)に出席し、意見交換、親睦を図った。

7.4 化学部会（化学/繊維/金属部門）

年4回の講演会を主催した。小規模ながら「自由な議論の場」を提供できるよう努め、一人の素朴な質疑が他の参加者の自由な好奇心を躍動させて、議論を通じて講師も新たな発想に目覚める、このような場を提供していきたいと思い部会運営を進める。

7.5 建設部会（建設/農業/森林/水産部門）

建設部門及び関連部門の活性化のため、主として建設業および建設技術者への技的な支援の在り方を検討し、地域建設業、環境に関する活動を市役所および町村役場から住民レベルまで拡大した活動に取り組んだ。諸活動の展開を通じて、地域との信頼関係を築き、技術士の社会貢献および認知度を高めるため、諸団体との連携強化活動を推進した。

本年度は3回の講演会を開催した。

その他に、愛知県支部の建設部会幹事が県内3か所の町役場を訪問し、建設部門技術士との交流・支援を行う取り組みを試みに開始した。

7.6 上下水道部会（上下水道部門）

主な活動として統括本部の上下水道部会例会のWEB講演会を、3回開催し、講演の水平展開を図った。内容に応じて関連する他部門の会員へも講演の案内を展開し、建設部門、衛生工学部門の会員の参加を受けた。

7.7 経営工学部会（経営工学部門）

企業を経営的な視点から支援する専門的な技術者グループとして2010年より活動を行っている。会員は愛知県のほか、静岡県など、また、経営工学部会のほか情報工学部会等の技術士も参加している。企業支援において高度な技術経営力を磨くための研鑽と情報収集を行っている。2020年度は講演会5回、企業見学会1回を実施した。

8. 会員関係

8.1 会員数（2020年3月31日現在）

個人会員（中部本部管下の会員数）

会員 1,244 名、 準会員 366 名、 合計 1,610 名

支部（県）別内訳

県名	正会員	準会員
静岡県	239	69
岐阜県	148	48
愛知県	767	210
三重県	90	39

中部本部協賛団体 9団体、9口

8.2 受賞・表彰等

会長表彰者（2019年度表彰-2号推薦者）

・森 一明 会員（静岡県・機械／経営工学）

8.3 統括本部名誉会員（2020年3月31日現在）

・栗原 克己	愛知県
・横井 忠夫	愛知県
・杉本 利夫	愛知県
・足立 富士夫	岐阜県
・磯部 俊夫	静岡県
・前田 武光	愛知県
・鈴木 義郎	愛知県
・宮野 久男	愛知県
・川浦 昭平	愛知県
・中山 直樹	岐阜県
・辻 喜礦	愛知県
・平澤 征夫	愛知県

8.4 物故会員（ご冥福をお祈り致します。一部確認漏れは次回に掲載。）

・金牧 俊夫 物故会員 静岡県

決算

2020/ 4/17 9:47

収支予算管理月報（税込）

2019年 4月 1日から2020年 3月31日まで

統合会計（地域組織）
一般会計ページ 1
中部本部

科 目	コード	予 算 額	決 算 額	差 異	率
I 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
事業収入	710	[1,700,000]	[631,100]	[1,068,900]	[37.12]
自主事業収入		(1,700,000)	(631,100)	(1,068,900)	(37.12)
参加費収入		1,500,000	570,500	929,500	38.03
各種資料等頒布		100,000	60,600	39,400	60.60
外部依頼管理収		100,000	0	100,000	0.00
地域組織収入	722	[13,036,000]	[13,168,946]	[-132,946]	[101.02]
地域組織活動収		8,746,000	8,878,946	-132,946	101.52
地域組織補助収		(4,290,000)	(4,290,000)	0	100.00
講演会・見学会		890,000	890,000	0	100.00
合同セミナー補		400,000	400,000	0	100.00
その他補助費		3,000,000	3,000,000	0	100.00
雑収入	737	[310,000]	[403,051]	[-93,051]	[130.02]
受取利息		10,000	111	9,889	1.11
雑収入		100,000	132,940	-32,940	132.94
協賛金収入		200,000	270,000	-70,000	135.00
事業活動収入計		15,046,000	14,203,097	842,903	94.40
2. 事業活動支出					
事業費支出	801	[15,670,000]	[13,689,722]	[1,980,278]	[87.36]
事業広報費		(200,000)	(117,001)	(82,999)	(58.50)
インターネット運用費		100,000	24,200	75,800	24.20
その他広報活動		100,000	92,801	7,199	92.80
普及啓発費		(360,000)	(758,000)	(-398,000)	(210.56)
合同セミナー開催		0	400,000	-400,000	
関係団体会議費		360,000	358,000	2,000	99.44
研鑽費		(2,770,000)	(956,864)	(1,813,136)	(34.54)
講演会・見学会		2,770,000	956,864	1,813,136	34.54
各種資料等作成		100,000	29,300	70,700	29.30
業務推進費		(12,240,000)	(11,828,557)	(411,443)	(96.64)
賃金		1,850,000	1,729,669	120,331	93.50
会議費		2,000,000	920,060	1,079,940	46.00
旅費交通費		300,000	499,216	-199,216	166.41
通信運搬費		200,000	156,973	43,027	78.49
消耗品費		300,000	229,732	70,268	76.58
印刷製本費		570,000	737,689	-167,689	129.42
光熱水料費		270,000	249,922	20,078	92.56
事務所賃借料		2,200,000	2,190,821	9,179	99.58
地域委員会活動		2,540,000	3,113,106	-573,106	122.56
地域組織活動費		1,920,000	1,920,000	0	100.00
雑費その他		90,000	81,369	8,631	90.41
事業活動支出計		15,670,000	13,689,722	1,980,278	87.36
事業活動収支差額		-624,000	513,375	-1,137,375	-82.27
II 投資活動収支の部					
1. 投資活動収入					
投資活動収入計		0	0	0	
2. 投資活動支出					
投資活動支出計		0	0	0	
投資活動収支差額		0	0	0	
III 財務活動収支の部					
1. 財務活動収入					

収支予算管理月報（税込）

2019年 4月 1日から2020年 3月31日まで

統合会計（地域組織）
一般会計ページ 2
中部本部

科 目	コード	予 算 額	決 算 額	差 異	率
財務活動収入計		0	0	0	
2. 財務活動支出					
財務活動支出計		0	0	0	
財務活動収支差額		0	0	0	
当期収支差額		-624,000	513,375	-1,137,375	-82.27
前期繰越収支差額		14,931,000	15,046,374	-115,374	100.77
次期繰越収支差額		14,307,000	15,559,749	-1,252,749	108.76

第2号報告 2020年度事業計画

公益社団法人 日本技術士会 中部本部

日本技術士会は、平成23年3月29日文科科学省から公益社団法人化の許可を得て、中部支部が中部本部に改正され、新たな組織活動が展開されてきました。この公益社団法人活動では、如何に社会発信による貢献を果たすかで社会から好評価が得られることを目指してまいりました。

今、正に産業界における「第4次産業革命（ソサエティ5.0）」では、出遅れている現状脱皮を模索するところですが、PE（プロフェッショナルエンジニア）にはこの舞台での活躍が期待されています。これは、2019年7月1日に全面施行されました「日本産業規格（JIS）」にも盛り込まれ、「標準化の対象が、モノづくり技術から、サービスやデータ」なる新しい産業標準化法となりましたが、今までに無かった技術対応が、社会から求められている証左です。

一方、インフラ系では高度成長下で構築された構造物に関して、よもやの阪神淡路大震災そして笹子トンネル天板崩落事故等を踏まえ、のきなみ保守・点検の必要性が要請されてきています。

公益社団法人日本技術士会中部本部活動は、地域の会員のための活動から、事業活動を通しての一点一点の通過点を克服する過程での社会への発信によって、PEらしい貢献を求められ、社会のニーズに応えられる体制整備・事業活動が必要です。

その根幹は、明るく、楽しく、役に立つ技術士会活動 by APTSIS（Agility: とにかく早く手を打つ、Principle: 原理・原則に忠実であれ、Transparency: 透明性、Sense of survival: 生存競争、International: 国際性、Safety & Sustainability: 健康・環境対応）の精神であります。

事業展開は、下記の主要8項目に従い進めていきます。

1) 文科科学省による技術士制度検討特別委員会で2015年「技術士制度の見直し」が議題となり、検討が開始され、現時点第Ⅲ期検討が2019年より行われています。中部本部でも、「CPD活動」等でCPD4点セットの整備による本質的な視点での見直しを実行してきていますが、建設系協議会ホームページへの登録制度活用にみられます「CPD活動登録」の充実等で更なる展開を図っていきます。

2) 中部本部活動の活性化への基本は、公益社団法人日本技術士会としてのガバナンスを考慮した活動であり、基本表明に掲げる「PE 団体に相応しい活性化」を盛り込んだ内容(ex.技術士研究・業績発表大会の設置)を更に進めます。

3) これら事業活動を通して当年度も引き続き中部管区行政機関等との連携強化に努め、各委員会、各部会、各県支部等の活動グループそして登録グループによる事業活動の通過点において、他の専門家機関や各団体との連携にも積極的に取り組み、地域貢献への道を拓くことに努めます。

4) 私ども公益社団法人日本技術士会中部本部では、昭和 34 年 6 月 1 日を中部本部（支部）創立記念日に定めております。例年通り、土曜日の『5 月 30 日（土）』には、“技術士制度普及に関する記念事業”を夏季例会として開催します。

5) 活動組織は、活動軸として外部対応および内部対応として次のように設定しましたが、更なる改善・明確化に努めます。

〔地域委員会〕（当本部の活動に対する核となる組織です）

－（外部対応）－倫理委員会、社会貢献委員会、活用促進委員会、独立技術士交流委員会
青年技術士交流委員会、登録グループ「よろず科学技術相談所」

－（内部対応）－倫理委員会、企画委員会、総務委員会、広報委員会、試験業務支援委員会、研修委員会、修習技術者支援委員会

〔技術部門別組織〕（科学技術・部門に関する対応組織で、地域本部特性に基づいた合同部会となっています）

－機械部会、航空部会、電気電子情報工学部会、化学部会、建設部会、上下水道部会、経営工学部会

〔県支部〕（各県単位で支部活動を行っております）

－愛知県支部、岐阜県支部、三重県支部、静岡県支部

なお、これら活動軸は、固定するものではなく、活動軸としての整理です。

6) 中部本部活動としての活性化策の中心は、「中小企業への技術的支援」、「大学など教育機関と地元中小企業との交流」、「専門家団体との連携」等を考え、各活動グループの活動成果により地域の信頼を得ることです。そのことが、技術士の社会的知名度獲得に通じます。

7) 第 47 回技術士全国大会（中部・愛知）の企画・運営を中部本部愛知県支部主担にて実行しますが、中部本部は上位組織として、主催者としての統括本部、中部管区行政機関、地域大学、地域中小企業、各種専門家団体等との連携はじめ、全面的支援を行っていきます。

※新型コロナウイルス感染流行のため、47 回全国大会は中止し、2 年後の 2023 年度の全国大会を愛知で開催することとなりました。

8) 登録グループ「よろず科学技術相談所」の活動推進

これからの日本の産業界においては、新技術の開発等での活性化が広く及ぶことが求められています。特に、地域の中小企業事業者に対しての専門家による支援が重要になっており、この支援推進には、低い敷居で立ち寄り、かつ平易な対応を行う技術士の活動グループが求められています。「よろず科学技術相談所」は、エネルギー問題、環境問題、新製品開発、新規材料開発、事故、災害、係争、トラブルなどを気軽に技術士へ相談できることを目的に技術士によるグループ活動を開始してきているが、昨年度までの実績を踏まえ 2020 年度も更なる活動を推進していきます。

2020 年度予算 省略.....

中部本部役員

2019-2020年度中部本部役員・統括本部委員（幹事37名,オブザーバ2名 定員40名）

本部役員

本部長	平田 賢太郎	
理事・副本部長	水野 朝夫	【愛知県支部長】【全国大会実行委員長】
副本部長	上田 直和	【諸事相談役】
	安田 義美	【岐阜県支部長】
	竹居 信幸	【三重県支部長】【企画委員長】
	山之上 誠	【静岡県支部長】
会計幹事	富田 剛	【企画委員会副委員長】
事務局長	山口 正隆	【総務委員長】
事務局次長	春田 要一	【総務委員会副委員長】
幹事	池田 実	【全国大会副実行委員長】
	比屋根 均	【倫理委員長】
	麻田 祐一	【教育促進小委員長】【研修委員会副委員長】
		【全国大会副実行委員長】
	石川 智康	【青年技術士交流委員長】
	嘉田 善仁	【青年技術士交流委副委員長】
	岡井 政彦	【広報委員長】
	栗本 和明	【広報委員会副委員長】
	高木 智	【広報委員会副委員長】
	田島 暎久	【独立技術士交流委員長】
	三宅 立郎	
	中西 秀伸	【試験業務支援委員長】
	濱田 常雄	【試験業務支援副委員長】
	野々部 顕治	【理科支援小委員長】
	谷口 芳和	【理科支援小委副委員長】
	森川 英憲	【研修委員長】
	岩田 良明	【総務委員会委員】
	行本 正雄	【修習技術者支援委員長】
	牧野 敏行	【修習技術者支援副委員長】
	村橋 光臣	【活用促進委員長】
	前田 持	【PL実践研究小委員長】
	西岡 昭彦	【企業内技術士小委員長】
	平澤 征夫	【社会貢献委員長】【建設部会代表幹事】
	小方 弘成	【機械部会代表幹事】【試験業務支援副委員長】
	池田 和人	【化学部会代表幹事】
	水野 公元	【電気電子情報工学部会代表幹事】
	川崎 哲夫	【航空部会代表幹事】
	長谷川 欽一	【経営工学部会代表幹事】
	牧野 好秀	【企画委員会委員】
(オブザーバ)	貴志 公博	【統括本部理事】
(オブザーバ)	中西 利美	【上下水道部会代表幹事】
事務局	松田 あゆみ	
特別顧問	渡邊 好啓	【ものづくり分野】
顧問	蛇川 雄司	【インフラ系分野】
	稲垣 隆司	【SDGs分野】

統括本部委員（本部役員兼務）

常設委員会委員【総務委員会】

山口 正隆 ②

実行委員会委員

- ・CPD支援委員会
森川 英憲 ④
- ・修習技術者支援委員会
行本 正雄 ④
- ・青年技術士交流委員会
石川 智康 ⑥
- ・技術士活性化委員会
村橋 光臣 ②
- ・防災支援委員会
平澤 征夫 ④
- ・科学技術振興支援委員会
谷口 芳和 ②
- ・日韓技術士交流委員会
田島 暎久 ④
- ・海外活動支援委員会
三宅 立郎 ②
- ・広報委員会
岡井 政彦 ④
高木 智 ②

登録グループ

- ・よろず科学技術相談所
橋本 宗到【代表】

注記：統括本部委員の②等は担当年数、②は2年目を表します。

＜愛知県支部の2020年度運営方針＞

副支部長 野々部顕治 技術士（上下水道、衛生工学）



新型コロナウイルス感染拡大のため、2020年7月25日に予定していた年次大会を開催できませんでした。それに向けて年次大会資料は作成していたので、支部会員の皆様にはメールで送らせていただきました。また支部が全力を挙げて準備を進めてきた第47回技術士全国大会（愛知）も、2023年に延期することになりました。

今年度については、以下の方針に基づいて支部活動を進めてまいります。

1. 支部方針

- ・ 前年度に引き続き、公益社団法人日本技術士会 中部本部 愛知県支部としての組織と技術士の認知度を上げることに全力を尽くす。
- ・ 社会に開かれた技術士活動の見える化を心掛けて、活動を進めます。月1回程度講演会等の充実を図り、一般の方が聞きたくなる講演会活動を提案する。
- ・ 新組織で検討してきた成果を少しずつでも発揮できるように、役員・会員と一緒に活動できる支部を目指す。
- ・ 中部本部の「明るく、楽しく、役にたつ」のモットーに則り進めていく。

2. 活動計画

- ・ 例会など開催予定
下記の①～③を予定している。
 - ①11月29日（日） 11月Zoom講演会
テーマ：「新型コロナには、こう対応せよ」
講演1. 技術士（衛生工学部門）松田則雄先生
講演2. 技術士（農業部門）山口正隆先生
 - ②1月10日（日）ふれあい技術プラザ
ZOOMによるリモート開催（無料）
 - ③2月 業績発表会
詳細は現在調整中
- ・ 社会貢献委員会活動
下記の①～③のとおり、いずれも新型コロナウイルス対策のため当面は Zoom とする。
 - ①食問題研究会：毎月第2土曜日午前に開催
 - ②企業活動研究会：毎月第2土曜日午後開催
 - ③ワイガヤフォーラム：毎月月末開催
- ・ 防災支援活動
「第4回防災に関する講演会・セミナー・特別勉強会など」を開催。
自治体（主として町村）との支援協定を検討（具体的な試行を開始する）。
防災支援員追加募集を実施中、県支部防災委員会委員を募集。

以上

＜2020 年度三重県支部活動方針について＞

三重県支部長 竹居信幸 技術士（建設、総合技術監理）



新型コロナウイルス感染症拡大のため、支部の活動が実施できていないのが現状ですが、三重県支部としては、以下の活動方針に基づいて、支部活動を実施してまいります。

1. 基本方針 ‘外部に開かれた会員の役に立つ技術士会活動の実践’

- ① セミナー（例会）、カフェ、見学会、懇親会
- ② 身の丈にあった支部運営、タスクの明示と責任明確化

- 1) 日本技術士会の理念に基づき、技術士が可能な社会的貢献を目指す。
- 2) 会員数の増加により、組織力向上を図る。
- 3) 会員の役に立つ継続的研鑽を図り、思いを反映する。
- 4) 会員間、諸団体との異業種を含むネットワークを拡大する。
- 5) 支部役員の役割を明確化し、支部活動の活性化を図る。
- 6) 技術士制度等の改定についての情報を速やかに伝達することで会員の権利を守る。

2. 具体的活動指針

- 1) 社会貢献を図るために、防災分野はじめ積極的に技術士活動の紹介を対外へ行う。
- 2) 年次大会1回、セミナー4回を開催し、各種情報提供、会員相互の情報交換・親睦を図る。
- 3) 会員の技術紹介を主とし、大学等の外部招待講演により研修を充実する。
- 4) 三重県内外企業の工場、工事現場等の見学会を年2回実施し、見聞・見識を広げ、深める。
- 5) 会報の定期発行（年3回）により会員への情報提供及び情報交換、外部への広報を図る。
- 6) 外部からの技術相談、業務委託に積極的に対応する。
- 7) ホームページ、フェイスブックを適宜更新し、情報伝達の充実を図る。
- 8) 理科支援特別講義への積極的な参加を行う。登録者の拡大を図る。
- 9) 新合格者へのアプローチ及び会員の紹介等による会員拡大を図る。
- 10) IT 関連または防災関連講演の年1回実施。
- 11) みえテクノロジーカフェ（年6回）の認知度向上、定着化および推進。

コロナ対応の課題としては、WEB 会議システムの導入がありますが、事務所のない支部ですので、セキュリティの担保された Wi-Fi のある会議室を確保する必要があり、検討中の段階となっています。

以上

＜岐阜県支部の2020年度運営方針＞

支部長 安田義美 技術士（経営工学）



新型コロナウイルス感染拡大のため、予定していた2020年3月及び5月（年次大会）の例会・講演会を開催できませんでした。

今年度については、以下の方針に基づいて支部活動を進めてまいります。

1. 支部方針

- ・ 魅力ある講演会、見学会等の開催とともに社会貢献活動を通して企業、官公庁等社会との繋がりを強めるとともに、一般社会からの認知度の向上を目指す。
- ・ 講演会の企画には、社会動向を踏まえた興味あるテーマを選定し、社会に開かれた技術士活動を心掛けて活動を進める。
- ・ また、支部会員の技術士会活動への参加を促して、岐阜県支部活動を盛り上げていく。
- ・ 講演会・交流会や社会貢献活動に参加して、良かった、面白かったと感じられる支部活動を目指し、中部本部の「明るく、楽しく、役にたつ」のモットーに則り進めていく。

2. 活動計画

- ・ 例会・講演会の開催 奇数月の第一土曜日を原則に開催する。
WEBによる講演会をベースに開催し、会員に対するCPDの提供に資する。（7月からWEB講演会を開始）
コロナウイルスの感染状況を見極め、実会合が可能な場合は、WEBと並行して開催。
- ・ 見学会の開催 2回程度の工場見学を企画する。（コロナウイルスの感染状況を見極めて企画）
- ・ 広報誌の発行 会員相互の交流、技術士としての情報発信力の醸成を狙いとして継続実施
- ・ 社会貢献活動 a) 岐阜県工業会、b) 岐阜県土業連絡協議会、c) 地域経済情報交換会（岐阜県商工労働部主催）、d) 岐阜県研究開発財団の産学官共同研究助成金審査会、e) 「清流の国ぎふ」SDGs推進ネットワークへの参加、f) その他 行政関係 等への参画
- ・ 社会貢献（防災）委員会活動 a) 地域で活用できる親子防災教室（案）の検討・開催等、b) 防災委員の勧誘、c) 各自の地域での防災支援活動の取り組み
- ・ 技術士の企業、官公庁への技術支援業務の活性化
技術士の活用促進を図るため、活用促進委員会の活動を軸として、企業、官公庁への技術支援業務の拡大を図る。また、広報委員会を通じて、積極的なアピール活動を展開する。

以上

＜静岡県支部の2020年度の活動方針＞

支部長 山之上 誠 技術士（建設）



1. はじめに

静岡県支部の方針は、内から外への事業活動を重視し、技術士の活躍の場を広げる努力を続けることです。2020年の春先に発生した新型コロナウイルス感染症のために予定された会議や例会の予定が中止か延期を余儀なくされています。役員会など事前の会合の方法についても使い分けが求められており、web会議についても具体的に検討していかざるを得ません。

以下に、今年度の活動方針の概要を紹介します。とくには、防災支援活動ならびに社会貢献活動を取り上げ説明します。

2. 活動方針の概要

静岡県支部の会員・準会員は、2020年3月28日現在311名です。支部の運営は、選挙で選出された幹事19名と各委員6名の総勢25人が携わります。

支部運営の基本方針は、

- ① 会員の自己研鑽への支援
- ② 技術士の存在価値を広めること
- ③ 地域社会への貢献 です。
 - ① についてはCPD例会開催に会員の積極的な参加をお願いするところです。そのために、参加会員の意向調査を踏まえ、講演内容に活かします。例会を6回予定しますが、その内1回は、外部機関の見学会を開催する機会を持ちます。
 - ② については、組織力を高めるため会員増をお願いしています。会員の専門性は多種にわたることから日頃から顔を見える関係づくりが必要と考えます。年齢を問わず、交流を深める中で組織の活性と活力を醸成していくことが社会への認知度につながるものと考え、協力を願いたいところです。
 - ③ については、災害協定、鑑定・検査、企業評価、企業支援（浙江省との企業支援も含む）などに会員が関与する案件について継続して関わりを持ちます。これらの活動には、報酬もありますが、事業運営のために業務手数料を支部の会計に戻入して活動経費に役立てています。相手先への日頃の関係保持のために年度初め、年始の関係先訪問は意義のあることと考えます。

3. 防災支援活動

社会貢献の一環ではありますが、昨年10月に、台風19号が伊豆半島に上陸し、甚大な被害を地域に与えました。県支部が所属する静岡県災害対策士業連絡会は、被災者支援相談会に初めて参加しましたが、防災活動で何が出来るかを現場で問われる経験をしました。その結果、今後にするべき課題が見えてきました。

防災支援活動については、

- ① 自治会を通じた住民のための支援

- ② 小学校への理科支援授業に防災教育を組み入れる
 - ③ 防災支援員個々の実力を付けるために活動の整理と研究
- これらの3項目を静岡方式として今年度の活動の柱としました。

4. 社会貢献活動

社会貢献においては、テクノロジーカフェを継続します。技術士の知名度を広めるために一般市民への技術の話題をわかりやすく紹介することが課題です。理科支援活動については、静岡県教育委員会ならびに山崎自然科学教育振興会を通じて会員が小学生を対象に授業を行う。場所は、静岡県内を問わず中部地方にも及びこともあります。

5. さいごに

現在、会社に属し、制約が多い会員も居られますが、将来の居場所のひとつとして、今からでも積極的な参加を期待するところです。県支部の広報としてホームページで活動内容をウェブ上にも公開しています。新型コロナウイルス感染症対策で3月からの予定が中止、延期を余儀なくされていますが、活動が再開されることが決まりましたら改めてホームページ上に掲載をさせていただきます。コロナ禍において、活動に制約が多い状況ではありますが、皆様方のご支援ご協力を引き続きお願い申し上げます。

<技術士会名誉会員に推挙されて考えたことなど>

平澤 征夫 技術士（建設）



1. はじめに

私は昨年9月に満 77 歳を迎えました。皆様方からはどのように観られているかは分かりませんが、自分ではやや微妙な感覚です。気持ちとしては未だ 65歳位かと思うこともありますが、体力的には足腰が以前のように自由でなく、視力も弱りつつあることを自覚します。特に眼は時々使い過ぎるとぼやけ、これからは消耗品と考えて大事に使わなければという気になります。頭脳も命も同様で、あまり使いすぎないで適度に使う方が長持ちするだろうと気楽に考えています。

そんなことを考えていた私に、この度中部本部の御推薦により名誉会員に認定され、6月15日付けで「名誉会員証」を送付していただくことが出来ました。私のような者が長年元気でやってこられたのも、先ずは歴代の中部本部長・幹事役員の皆様をはじめ、これまで私が委員長を務めました、修習技術者支援委員会、建設部会、社会貢献（防災支援小）委員会、および愛知県支部での副支部長および各種委員会（特に防災委員会設立時）委員の皆様のご協力があったからと関係各位に心より感謝申し上げる次第です。

さらに付け加えさせていただきますと、中部大学技術士会設立からこれまで一緒に活動されてきました中部大学卒業生の技術士からなる会員メンバーの励ましも、継続の大きな力となりました。私にとっては、常に苦しみよりも楽しみが重要と考えることにしています。

少々の困難はむしろ楽しみ之源みたいなものです。その意味では、技術士会入会（2007.5～）後のこの14年間は、私にとって大変充実したものでした。毎年、講演会の講師に誰をお願いしようかと考えるのは悩みでもあり、楽しみでもありました。それを皆様の協力で実現することが喜びとなっていました。また、春と秋のゴルフ大会も楽しみの一つでした。その他、私のせいで諸々のご迷惑をお掛けした皆様には、改めて、ご協力に感謝と御礼を申し上げます。

2. 人は後世に何を残すか

広報委員長の岡井様から、挨拶の他に何か書いてもよいとお許しを頂きましたので、以下、暇に任せた駄文を書かせていただきます。

今年はじめから世界に蔓延し始めた新型コロナウイルス禍が世界の経済や社会に与えた影響は、予想を超える規模であり、現在も多方面に拡大しつつある。今夏に日本で開催予定であった東京オリンピックも延期、第47回技術士全国大会（愛知）も中止せざるを得ない状況となり、我国だけでなく、世界の各国で都市封鎖があり、人命を守るため、人々の日々の生活も変えざるを得ない状態に至っている。人がこの世で生き続けるには、どんな時代でも乗り越えなければならない困難に直面したとき、人々はそれに耐え、あるいは克服して来たからこそ現在があるのである。今回の新型コロナ問題だけでなく、他の地球環境問題をはじめ、世界の諸問題も、過去の歴史に学べることは学び、人類の英知をもって、将来の持続可能な地球と社会を希求していく責任と義務が、現在この地球上に生きている我々に課せられていると考えている。

私自身がこの6か月間家に閉じ籠って考えたことはいろいろあり、良い機会だったと思っている。自由な時間を得て、自分の過去の人生を振り返ってみたとき、先ず頭に浮かんだ疑問は、

- ・これまで一体何をしてきたのだろうか？
- ・何を考え、何を実現し、それが果たして人々の役に立ってきたのだろうか？
- ・これから先、残りの人生で何を次世代に残せるのだろうか？

等であった。また、さらに大きな人類あるいは人間としての人生の疑問も浮かんだ。

- ①我々人類は何処からきて、どこへ行こうとしているのか？ ②人は何のために生きるのか？
③生きるということはどういうことなのか？ ④人は子孫のため、後世に何を遺すべきか？

上記の問い①～④は、古来、常に問われ、哲学され、永遠に答えのない問でもあろう。しかし、人が個人として日常生活する上では、自分なりに一応納得していなければならない問でもある。すべて判らないで済ますことは難しい。①～③は、あまりにも哲学的であるため、ここでは、私の身近で最近経験した事柄を通して④についてのみ、述べさせていただくことにしたい。

2.1 墓石のこと

私はこの半年の間、コロナ禍を避けて家籠りをし、これまでの生活リズムを変え、時間が持てたのを機会に、家中の書籍の整理と、自分の過去を整理する「終活」を始めた。書籍の整理は時間がかかりそうなので、先ず始めたのは、以前から気にかかっていた「墓地と墓石」の決定である。もしかして、今度の新型コロナに感染し死んだ際、どこに埋めるかを家族に心配させないためである。家内の先祖代々の墓が丹後の宮津市にあり、家内は一人娘であったので、私との結婚の際に、義父からこの私に対して、ご先祖の墓守を託されていたのであった。ちなみに私は、長野県伊那谷の農家で生まれた3男である。結論として最も簡単な方法は、私が家内の苗字に変えて婿養子になって同じ墓に入れば済むことである。しかし今更、苗字を変えるのも同意しがたいので次善の方法として、ご先祖様方には、誠に申し訳ないが、家内の両親の墓の敷地内に、墓石を並べて平澤家の墓石を建てさせていただくこととした。これで家内も両親と同じ墓地に入れることとなり、これで一件落着である。

2.2 墓碑銘のこと

次に生じたのは、墓碑銘のことである。墓碑銘は当初「平澤家」とだけにしようかと考えていたが、折角、墓石を新設するのだから何か子孫に残す言葉でも刻んでおこうかと考えたのである。この一寸した色気がその後私を悩ませることとなった。以下、本文章のテーマである「人は後世に何を残すか」について私の想いを述べることにする。お断りするまでもなく私個人の考え（想い）である。当然、私の生きた時代に関係しているし、その中で生活し、変化する時代と環境の中で経験した年齢も皆様とは異なっていることは、予めご理解とご容赦をお願いいたします。

先ず、どうせ遺すなら、自分がこれまで生きてきた中での信念を伝える言葉としようと考えた。具体的にどのような言葉を選ぶか？ そのためには、先ず自分のこれまでの人生を振り返って考えてみる必要があるだろう。考えてみると如何に自分という人間が、先人や育った周りの人々の恩恵に預かってきたかが判った。

2.3 先人の言葉と恩師の言葉

先ず、私が学び、心に刻んだ先人たちが遺してくれた言葉のいくつかを取り上げることにする。

- ・小学生時代（戦後で皆が貧しく、物資が少なかった時代、しかし、将来に夢が持てた時代）
(1) 君たちの心の中には皆自分の球があるのだ。それを自分で磨きなさい。そして、将来人々の役に立つ立派な人間になること。(小学校5・6年担任で中学の数学を教えてくれた山田先生)

「心に太陽を、そして唇に歌を」、『君たちはいかに生きるか』、『クオレ物語』など。

(2) 「我に七難を与え給へ」山中鹿之助(1545-1578)。ことわざ「艱難汝を玉にす」など、要するに辛抱と忍耐力を教えられた。

・中学生時代(戦後民主主義教育の中、中3の時父が病死、将来に大きな不安を抱いていた)

(3) 吉川英二(1892-1962)著『親鸞』を読んで救われた「いるところに遊ぶ」精神。

(4) 『般若心経』の「空」の思想。中学時代3年間の恩師下平(旧姓:桐生)先生より、「色即是空空即是色受想行識亦復如是」の前半部分を教えていただいた。虚無感があった。

・高校・大学時代(ケネディ大統領登場、3年後暗殺。一方で、高度成長経済発展の時代)

(5) 大学入試のために勉強した英文和訳の参考書の中の言葉、「逆境においてこそ、その人間の真価が問われているのだ」また、故事ことわざ「身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ」など。

(6) 武田信玄「風林火山」、「疾如風 徐如林 侵掠如火 不動如山」、武田節「人は石垣、人は城」、大学の邦楽部での部活と宇佐美如石師匠に習った琴古流尺八の古典本曲と禅語「只管打坐」。

・大学院時代と助手のころ(大学紛争と臨時職員闘争により、研究生活が乱れていたころ)

(7) 村田一郎「王将」—「吹けば飛ぶような将棋の駒にかけた命を笑わば、笑え」

鶴田浩二「唐獅子牡丹」—歌詞と映画

・教員時代(1969-2014まで約40年間昭和と平成年間)

(8) 「不言実行」—あてになる人間の育成— 中部大学創立者三浦幸平先生の建学の理念

(9) 内村鑑三(1861-1930):『後世への最大遺物』(子孫のための土木事業の重要性)

(10) 「技術は人なり」:第23代土木学会会長 青山 士(1878-1930)「万象二天意ヲ覚ルモノハ幸イナリ」(日本語と世界共通語のエスペラント語で記した。信濃川補修工事竣工時)

(11) 敬天愛人:西郷隆盛(1828-1877)の残した言葉として有名である。(名工大元学長吉田弥智先生も好んで用いられていた)

(12) その他、教育現場で痛感し、大学教育の在り方等に感銘する先人の言葉が多数あった。

2.4 遺した言葉

前節のように自分の過去に影響した言葉を振り返ってみたが、結局のところ、適当な言葉が見当たらなかった。そこで、あくまでも自分に素直になって考え、自分の人生を表すのに、ふさわしいと思われる言葉を選ぶことにした。思い当たる多くの言葉の中から、石碑文字にしても、ふさわしそうな次のありふれた言葉が浮かんだ。誠実、実行、真心、真理、探究、研究、教育、実現などである。しかし、言葉は、所詮、他人に物事を伝えるための道具であり、私の本当の心を伝えるには限界がある。古来、いかに心を伝えるかは、最大の問題である。言語だけでなく、文化や芸術もそのためにあったはずである。動物の行動も、他者に意思伝達の手段としてある。たまたま人間が文字を持つことによって情報伝達手段を拡大してきただけである。現代人は、コンピュータによる新たな伝達方法を発展させている。将来、AIの発達で、果たして「人間の『心』の伝達が可能」となるだろうか。だったら今更ながら、墓石や墓碑は不要である。確かに息子に相談した時、「なぜコンピュータにしなかったの?」と聞かれた。どうもコンピュータに対する信頼度が私と違うようである。

(1) エピソード(その1)

私が印象に残る「心」に関する二つのエピソードを加えてから結論に至りたいと思う。それは

2011年の東日本大震災の際に、津波で祖父母を失った小学校5年生の言葉である。ある記者から、「おじいさんとおばあさんは今どこにいますか？」と問われた少女の次の言葉である。「家族みんなの心の中にいます」というのである。普通なら、「天国にいます」あるいは「空のお星様になって、私たちを見守っていてくれています」と答えたであろう。この時私は思わず「『心』は伝えられるんだ」、亡くなった祖父母はどんなに喜んだらうと、感動を覚えたのである。

(2) エピソード (その2)

私が選んだ言葉に私の「心」を伝える努力をしようと考えた。それは、言葉それ自体記号であり心の実態を表すものではない。言霊(言魂)を信じられる人は、私の伝えたいことを理解していただけるかもしれない。しかし、『般若心経』でいう「色即是空空即是色」は形あるものはすべて空であり、また、空であっても意識(心)の中では明確な形を有すると考えられるという。(自分流解釈です) そうであれば、私が遺したいと願うものは、必ずしも、目に見える形を持たなくても伝えられるのではないかと考えた。

(3) 結果

さて、随分と回りくどい説明を行った私の墓碑銘問題の結果を示す。

右の写真に示したのが、今回の平澤家墓石の側面に彫ってもらった4文字である。私が本当に後世の人々に伝えたい文字は記入されていない。しかし、皆様には、必ず伝わったと信じている。空白に書かれた文字は、形はないが私が生涯で最も大事してきた2文字のうちの一文字である。もう一文字は、背面に縦に並べて刻んである。



「空即是実、実即是心」 = 実心

(4) 後日譚

8月6日に宮津の寺に行き、和尚さんに旧墓石の整備報告と平澤家の新墓石設置の入魂式を行ってもらった。和尚様からの質問は、「大学の工学部の出身でいらっしゃいますね」だけであった。

戒名 教育研究院征風実心居士 俗名 平澤 征夫 号 如風 (拝)

3. まとめ

今回、編集長の言葉に甘えて長文を書かせていただいた。今後、このような機会はないと思うので、まとめとして、今回のテーマである「後世に何を遺すべきか？」について先人の言を記す。

(1) 中国のことわざに、「1年先を考えるなら、花の種を蒔け。10年先なら木を植えよ。100年先なら人を育てよ」がある。

(2) 内村鑑三の『後世への最大遺物』明治27年に行われた講演である。子孫のためになる仕事例として土木事業を挙げている。青山 土 は、この講演を聞いて土木の道に入っている。

(3) 後藤新平の「金を残すは下、物(あるいは事業)を遺すは中、人を遺すは上なり」

結局、人を遺すことが重要であるが、人とともに心を伝えることが最も重要であると考えている。最近、人、物、情報、金(金融)が大切といわれるが、私はそれに加えて、人の心(その人の仕事に対する経験や伝えるべきノウハウを含む)が重要と考えている。コンピュータ情報として「人の心」が伝えられるだろうか。そこまでは、まだ私には信じる事が出来ないからである。

令和2年8月15日 平澤家墓石建立の日

(終わり)

＜会長賞を受賞して_技術士としての11年＞

森 一明 技術士（機械、経営工学）



1.はじめに

このたび会長表彰をいただき、まことに名誉なことと大変恐縮しております。中部本部および静岡県支部より推薦をいただき大変ありがとうございました。はじめに自己紹介と技術士取得の経緯をお話しし、その後11年の技術士としての活動内容などを紹介したいと思います。

私は東京農工大学機械工学科を卒業後、ヤマハ発動機（株）に38年勤務し定年後、現在、MPP KOMATSU（株）に9年勤務しています。ヤマハ発動機では設計を6年やり、その後、現在まで生産技術を41年担当しています。ものづくりは商品開発から製造までの一連の流れから成り立ちます。私がこの一連の流れを経験できたのは幸運だと思っています。

ヤマハ発動機はモータサイクルや船外機など小型エンジンをキー技術とした商品を開発、製造、販売している会社です。私は設計部門では大型モータサイクルのエンジン開発を、生産技術部門では大型モータサイクル用の一体型クランクシャフトの製造を、主に担当しました。

一方のMPP KOMATSUは二輪車用の専用設計ネジと四輪車用の精密小物部品を製造している会社です。MPPはMetal Parts Productionの略、KOMATSUは創業者の名前です。ブランドイメージは「オリジナル技術で金属加工の頂点を目指す」です。浜松西インターのすぐ近く、浜松西テクノ工業団地の中にあります。資本金1億、従業員200名の中堅企業です。冷間鍛造工場、切削加工工場、熱処理工場、表面処理工場をもち、社内一貫生産体制にこだわっています。中堅企業で、これだけ工程が揃っているところは少ないと思います。最近では自動車用自動変速機に使われる比例電磁弁の鉄心（ソレノイドコア）に力を入れており、現在、5商品群11部品のソレノイドコアをそれぞれ月産25万個から100万個と大量生産しています。モータサイクルでは月産2000個でも多いと思っていたので初めこの数字には驚きました。量は多いのですが受注単価が非常に安く、立上がり当初は赤字だったものを改善の積み重ねでやっと赤字が解消するという状態です。私の仕事は改善による原価低減活動です。

2.技術士になった経緯

技術士に挑戦しようと考えたのは、ヤマハ発動機時代の定年前で、自分の技術を社内だけでなく世間に評価してもらう良い機会だと思ったからです。機械部門（加工ファクトリオートメーション及び産業機械科目）を2年目にしてやっと取得しました。2009年のことです。2次試験の後半の専門は問題なかったのですが、前半の機械全般の範囲が広いのに大変苦労しました。翌年には経営工学部門（生産マネジメント科目）を取得しました。ヤマハの生産技術部門で、日本能率協会の織田寿二先生に師事しながら子会社の全社改善活動を推進した時代がありました。この時にIE改善技術が身につく、その後本社に戻った後も生産技術業務の中、特にTPM活動の中で大いに活用できました。上司からも「T型人間になれ」と指導されて育ったので、ハード技術の機械部門とソフト技術の経営工学部門の両方を取得できて良かったと思っています。

3.APECエンジニア

2009年に技術士を取得して日本技術士会静岡県支部の会員となりました。中部本部広報委員長の岡井さんが当時、静岡県支部の事務局長をされており、静岡県日中友好協議会からの依頼で中国浙江省人民政府主催の技術交流会への参加募集があり応募しました。佐藤仁一さん（電気電子）と宮野正克さん（経営工学）と三人で行って来ました。浙江省との友好県の栃木県からは

日本技術士会栃木県支部が、福井県からは福井県商工会議所と一緒に参加しました。この経験から海外との技術交流の重要性を認識し、2011年にAPECエンジニアを取得しました。APECエンジニアの取得には技術士二人と過去の上司の推薦状が必要でこれが一番大変でした。幸い技術士は佐藤さんと宮野さんから快く推薦をいただきました。またヤマハ発動機勤務中の2008年にPM優秀論文賞第一席を受賞し一緒に横浜の授賞式に出席したりと、当時の上司が私の良き理解者だったのでこちらも快く推薦状をいただくことが出来ました。

その後、2014年、2015年、2016年、2019年と5回、ちょうど10年にわたって浙江省科学技術庁と日本技術士会静岡県支部との技術交流会に参加して来ました。毎回、浙江省科学技術庁の外郭団体である浙江省対外科学技術交流センターの張要武さんを通じての招待でした。その間、張要武さんは副センター長から2019年にはセンター長に昇格されました。静岡県に駐在された経験をお持ちで日本語が堪能です。大変温厚で親日的な方です。

栃木県支部は2009年に浙江省対外科学技術交流センターと相互技術交流契約を結び、毎年相互訪問を継続しています。韓国、中国など海外との技術交流に積極的で、皆さんバイタリティにあふれた方ばかりです。その後も支部長の田仲喜一郎さん（農業土木）には浙江省との技術交流に関して情報提供をいただくなどいろいろお世話になりました。その後支部長は菅井俊郎さん（経営工学）、小黒幸市さん（建設）と代わられましたが、浙江省との技術交流会では毎回一緒に来て来ました。特に田仲さんからは、「技術士として中小企業の支援に力を入れている」など感銘のあるお話をいただきました。私も浙江省科学技術庁との技術交流会には知り合いの中小企業のトップに声をかけ参加や出展をしてもらって来ました。「日本の優秀な中小企業を中国に紹介したい」という思いからです。

4.技術者教育

吉田建彦さん（経営工学）が静岡県支部長の時2011年に私に中部本部の修習技術者支援委員会に委員として活動参加してもらえないかと依頼を受けたのが始まりで、技術士としてのライフワークとして技術者教育に関わりたいと思うようになりました。以後現在まで10年間委員をさせていただいています。当時は大同大学の田中秀和博士（工学）技術士（情報工学）が委員長でした。田中先生は日本初の無人電車、神戸ポートライナーのコンピュータ制御装置を開発された方です。立上がり当初は夜も眠れなかったそうです。そのご縁で一度、大同大学で開催された2013年の計測自動制御学会中部支部教育工学研究会に参加要請をいただき講演したことがあります。テーマは「ロボットを利用した課題解決型IE研修の試み」です。

実は2012年から静岡理工科大学の創造発見講座に妻の知人の紹介で学外講師を依頼され現在まで講座の一つ（後期、90分×15コマ）を担当しています。先の講演はその講座の内容を紹介したものです。卒業後地元の中小企業で活躍することを想定して製造業の基礎であるIE改善技術を小型ロボットというモノに触れながら学習します。学生には「サイクルタイムを半減にする」という課題を与え、ロボットの動作を分析して改善案をチームで考え競い合うという、楽しみながら実学を身につける研修です。私の講座を受講した学生がその後ロボット研究室に入ったりしています。コロナで一部遠隔授業になっていますが頑張っ続けていきたいと思っています。

＜子供向けに技術士がおすすめする本＞ —技術士会静岡県支部 HP より—

日本技術士会静岡県支部



技術士会静岡県支部では、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため学校へ行けない状態が続いている子供たちに向けて、各技術士が専門分野に関する書籍を紹介するコーナーをホームページに作成してはどうかと役員から提案されました。

支部の会員メーリングリストなどを通じて声をかけたところ、会員の皆様から50冊余りの本が提案・推薦されました。特にジャンルは問わず科学技術に関連したものであれば、絵本や専門図書、図鑑等の多種多様な分野の書籍が提案され、支部のホームページ（HP）ではこれらの書籍を提案された会員の推薦理由（数行のコメント）を付けて、＜技術士がおすすめする本の紹介＞としてHPに掲載し、子供たち向けに情報発信しております。ただし、技術士会の性格上支部のHPだけでは十分に子供たちへ宣伝しきれませんので、併せてtwitterあるいはFace BookのSNSによるつぶやきを会員から発信し、広く宣伝効果が出ることを期待しております。

書籍の分野：厳密には分類しにくいものもありますが、大雑把に分類して以下の構成となっています。特徴としては建設・土木系と防災関係の書籍が多く、防災に力を入れている静岡県支部のカラーを反映した内容で構成されています。

- ・建設・土木・建築 6冊
- ・防災 8冊
- ・電気・機械 5冊
- ・森林 2冊
- ・生物 2冊
- ・環境 4冊
- ・化学 1冊
- ・地学、地球科学 2冊
- ・科学・理科一般 12冊
- ・その他 4冊

記事の一部をHPから抜粋して以下に紹介します。中部本部会員の皆様もHPをご一読頂き、TwitterなどSNSをお持ちの方は、下記をつぶやいていただければと考えております。

http://ipej-shizu.sakura.ne.jp/book_introduction.html

新型コロナウイルス感染症「COVID-19」感染拡大防止のため、外出自粛要請が出され、家で過ごす時間が多くなっていると思います。また、休校が続き子供たちも思うように勉強できない日々が続いていると思います。技術や科学って難しそう、興味はあるけどとっかかりが見つけられないなど、そう思っている方に技術や科学にふれるきっかけを作っていただけるように、当支部の技術士から本を紹介します。

こどもにもわかりやすい本を選びました。幅広い分野、実験の解説書、絵本、エッセイ、本の形態も様々です。ぜひ、技術や科学への扉をあけて、楽しんでください。

光れ！泥だんご **建設** **自然科学**

著者：加用文男監修 出版社：講談社 出版年：2001年1月

普通の土で泥だんごをつくってみよう。少しのコツをつかんで、磨けば磨くほど光る作品をつくってみよう。中学生以下むけ

柴田達哉（建設,応用理学,総合技術監理）2020/5/10

森からみる地球の未来 水と土をはぐくむ森 **森林**

著者：太田猛彦 編者：松井光瑤 出版社：文研出版 出版年：1996年8月

森の仕組み、森の土のこと、森と川の関係、森の機能。わたしたちの生活に大きく関わる森林のことを、イラストや写真を使ってわかりやすく解説してくれています。漢字には、ふりがなが

ふってあるので読みやすくなっています。

関根洋子(森林部門)2020/05/07

流れのふしぎ 遊んでわかる流体力学のABC **科学** **機械**

著者：石綿良三・根本光正 出版社：講談社（ブルーバックス） 出版年：2004年8月

高学年から中学生向きです。日常の道具を使う簡単な実験によって水や空気の不思議な性質を体験できます。さまざまな機械装置が、水や空気の不思議な性質を巧みに利用していることが学べます。

小南秀彰(機械部門)2020/05/05

100年橋梁 **土木技術**

著者：土木学会鋼構造委員会 出版社：土木学会 出版年：2014年09月

今から100年以上前に造られ日本経済の発展を担ってきた鋼製の橋は、当初アメリカやイギリスで造られた鋼材が使われるなど、橋の歴史について解り易く解説されています。

岩田良明（建設・総合技術監理）2020/05/03

わたしのひかり **環境**

著者：モリー・バング 作 さくま ゆみこ 訳 出版社：評論社 出版年：2011年6月

エネルギーのお話です

ナカムラヒロシ(総合技術監理、生物工学部門)2020/05/03

遊んで学ぼう 電気の自由研究 **機械** **電気電子**

著者：福田勉 出版社：(社)電気学会（オーム社） 出版年：2005年12月

いまでは電気がないくらしは全く考えられません。電気に興味をもってなにかおもしろい実験をさがしているあなた。初級、中級、上級に分かれています。さあ実験してみましょう。

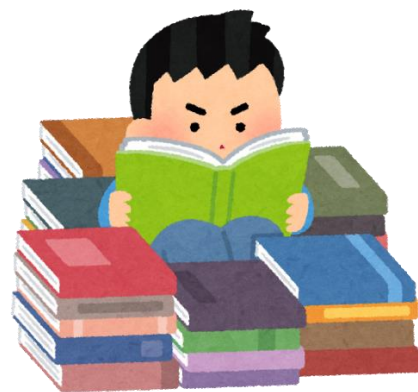
岡井政彦(電気電子部門)2020/05/03

絵図で読み解く天災の日本史 **防災**

監修：磯田道史、著者：蓮見清一 出版社：株式会社宝島社 出版年：2015年6月

静岡文化芸術大学教授・磯田道史先生監修による解説本。絵図・古地図・古文書に書き遺された「防災の知恵」を先人に学び、この先起こりうる災害に備えます。

長嶋滋孔（建設部門）



<合格者説明会を開催しました>

日本技術士会静岡県支部

静岡県支部主催 「2019年度の技術士試験合格者（一次、二次）説明会」

8月22日、静岡市内にて実施

コロナ禍で大変な中、6名の合格者の方々に出席していただき、これからの皆様の活躍をお祝いしました。

出席者から感想をいただきましたので、下記に掲載します。

「技術士試験に合格して」

須永 浩介（電気電子） 静岡県掛川市

1. 技術士の受験動機について

私が初めて技術士の存在を知ったのは10年以上前で、電気主任技術者試験を受験中の時でしたが、技術系最高峰の資格で大変難易度の高い資格であるという認識程度でした。

技術士の資格に挑戦する切っ掛けは電気主任技術者の集まりで技術士の資格を持った方と出会い、その方の豊富な知識や経験、難しいことへのチャレンジ精神を持っておられ、さらに技術レベルの違いを感じ、その頃から私もそうなりたいと思う様になりました。

2. 受験中について

受験した年は会社の昇級試験や飼っていた犬(8/29に旅立ちました)の体調悪化など技術士の試験1つに集中できない状態でした。うちの犬の状態が悪くなるにつれて“天国に行っても自慢できる飼い主になる”と自分を奮い立たせて、なんとか1回の受験で合格することができました。

3. 合格後の抱負、将来設計

技術士の試験には合格しましたが、技術士らしいことは何一つできていません。合格したことに満足することなく、旅立った犬のためにも積極的に日本技術士会や学会などの活動に参加し、他部門の方々と交流を深めることで広い視野を持ち、業務に役立て社会貢献が出来る様、努力していく所存であります。まだまだ未熟で至らないことも多いと思いますが、皆様からのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

「技術士一次試験に合格して」

伊藤 佳代子（一次 建設） 静岡県浜松市

建設コンサルタントに勤続して20年、節目の年を迎えるにあたり、上司の勧めもあって、技術士試験を受験したのが一昨年でした。しかし、あまり準備が出来ないまま受験当日を迎えてしまい、当然のことながら不合格でした。この反省から、短い時間を利用し、過去問の勉強をしました。それでも正直なところ十分な準備が出来た自信がなく、また受験当日は台風19号の影響で新幹線が大幅に遅延するハプニングもあり、また不合格かと諦めていましたが、合格の知らせを受け、受験して良かったと安堵しました。

私が就職した頃は、女性社員は男性社員のサポート役という認識がまだ強かったのですが、今では技術士等の資格を持ち、中心的な役割を持って仕事に打ち込む女性社員がごく普通になってきました。会社もそれを後押ししてくれます。私も子育てしながら、忙しくも充実した日々を送っていますので、私の人生にとって働くことはプラスになっていると思います。

今後はさらに研鑽を積んで技術士となり、顧客や同僚から信頼され頼りにされる技術者になること、そして若手の手本となる技術者に成長したいと、決意を新たにしています。



出席の皆様（集合写真） 2020/08/22

<技術士全国大会(2020年 愛知)開催の延期のお知らせ>

中部本部事務局

第47回技術士全国大会（愛知）開催の延期のお知らせ

公益社団法人日本技術士会
中部本部本部長 平田賢太郎

1. はじめに

新型コロナウイルス感染が世界的な問題となって以来、当初全国大会(10月2日～5日)の開催可否検討を行って来ましたが、しかし今般、「今年度の愛知での開催を中止とする」こととなりました。

2. 延期の理由

(1) 2020年10月に発信・交流を意図した通常通り、あるいは規模を縮小しても開催は困難である。

【理由】

- ① 新型コロナウイルス感染拡大の今後の収束が予測できない。
 - ・第2波、第3波が来ると言われているが時期は不明。
 - ・現在も自粛が完全に解除されているわけではない。
- ② 講演者、見学先からの協力が危ぶまれる。
 - ・現状でのイベント開催、参加は控えたいと想定される。
- ③ 参加者が大幅に減少する可能性もある。
 - ・参加する側にとっても現状では、躊躇あるいは控えたいと想定される。
 - ・交流の場（懇親会）がないのでは参加する意味がないと想定される。

(2) WEB配信を活用した開催も困難と判断される。

【理由】

- ① 改めて大会を企画するには時間が足りない。
 - ・大会の内容（テーマ）、実施方法を零から再度検討する必要がある。
 - ・大会企画・運営を外部に委託することも考えられるが、準備に時間を要する。
- ② IT技術（ビデオ会議等）を活用しての成果を得ることが今回はできない。
 - ・IT技術の有効な活用方法は検討段階である。
 - ・IT技術を活用した大会運営のスキルを習得するのに時間が足りない。
 - ・運営を外部に委託することも考えられるが、準備に時間を要する。

(1)、(2)より、2020年全国大会は中止せざるを得ないとの判断に至りました。

3. 今後の技術士全国大会（愛知）の実施時期（延期）

今後の全国大会は

- ・2021年度：統括本部による創立70周年記念大会を検討中
- ・2022年度：すでに近畿本部により奈良市での開催を検討中

でありますので、愛知での開催は2023年度となる予定です。

4. 最後に

昨年10月四国・徳島で『名古屋へ来て本当に良かった』と思われる開催をコミットし準備してきました。しかし人間の命より大事なものはなく、全国大会を楽しみにされていたりしゃる会員の皆様のご期待に応えることができず大変心苦しいのですが、このような社会情勢においての開催はリスクが大き過ぎるため苦渋の決断となりました。ぜひご理解を賜りたいと存じます。

3年後の2023年に愛知で開催する際には、皆様にお会いできることを楽しみにしております。

以上

<事務局さんぼみち>

山口正隆 、松田あゆみ



事務局長としてはや 14 カ月経ちました。このうち 7 カ月が“コロナ禍”との闘い（あるいは様子見？）であり、まだ先々は不透明です。この間事務局の主要活動である中部本部役員会、年次大会、春季、夏季講演会行事が中止となり、各委員会、部会、県支部活動も延期や中止となりました。特に 2020 年度全国大会（愛知県主催）の中止決定は、数年前から積上げてきたテンションの高まりが一気に下がる事態を招く経験でした。

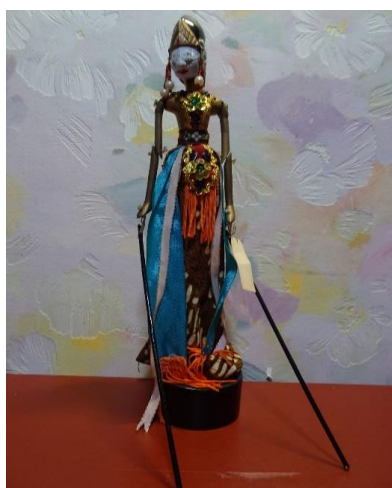
また国内外コロナ感染対策拡大は、我々の生活を余儀なく自粛させ影響を与えています。

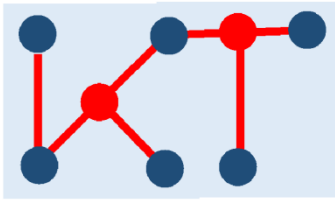
- ・「不要不急」の外出規制で、コロナ太りが気になっている人。
- ・大学に入学したけど、オンライン授業のみで、学生生活ができていない人。
（友人との語らい、クラブ活動もできず、大学の価値が見出せないままの状態）
- ・入社したけど、入社式もできず、ずーと在宅勤務が続いている人。
- ・行政からの要請で、夜の営業が規制された人、他県への移動を規制された旅行業者。

その他多くの分野の人に多大な影響が生じ、大きな社会問題となっています。このまま手遅れにならないように、根本的な対応が切に望まれます。

その反面、（私感ですが）これまで、気がつかなかった事の発見や、新しい価値観が芽生えている実感もあります。

- ① オンラインを利用した効果的な会議の運用（無駄な時間をできるだけ削除する）
 - ② ソーシャルディスタンスに慣れ、適切な対人との距離感覚、マスク着用、手洗い等衛生面の意識向上
 - ③ 有効な時間の使い方の模索経験により、物事の整理（断捨離等）段取りが向上
- 事務局も、新しい視点を持って必要な変化を進める時期です。これからも統括本部からの動向を伝え、地域本部活性化を図るよう諸問題を解決していきたいと思えます。
皆様方のご支援、ご指導、ご鞭撻をよろしくお願い致します。





共栄テクニカ株式会社

〒509-0125 岐阜県各務原市鵜沼南町6丁目 201 番地

TEL 058-384-6550 FAX 058-370-1996

<http://www.kyoeitec.co.jp/company.html>

私たちは技術に関するお手伝いをさせていただきます

得意分野は実験機・試験機・検査機に関する、開発・設計・製作・メンテナンスです

(技術者は、機械・電気・電子・ソフト分野の担当者が当たります)

玉野総合コンサルタント株式会社

～ 権威ある成果 品位ある行動 ～

私たち玉野総合コンサルタント株式会社の社訓である「権威ある成果 品位ある行動」は、そうした仕事への姿勢とともに、社員一人ひとりが社会人として気高さや上品さを持ち行動することを示しています。

日本技術士会 会員：162名

技術士登録者数

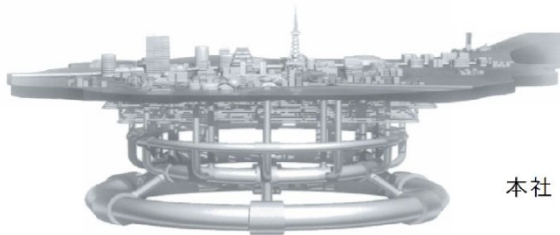
部 門	人数
総合技術管理	35
建 設	151
上 下 水 道	9
衛 生 工 学	2
農 業	3
森 林	1
水 産	1
情 報 工 学	1
応 用 理 学	8
環 境	11
合 計	222



人・街・自然・いきいき

中日本建設コンサルタント株式会社

Nakanihon Engineering Consultants Co.,Ltd.



業務内容：道路・河川・鉄道等公共事業全般
上水道・下水道・工業用水道
廃棄物処理・廃水処理

代表取締役社長 上田 直和

本社 〒460-0003 名古屋市中区錦一丁目8番6号

TEL(052)232-6032 FAX(052)221-7827

URL <http://www.nakanihon.co.jp/>

New Amenity Creation

かたちを超える「もの」づくり

ソーシャルデザイン(環境・防災)

プロダクトデザイン

グラフィックデザイン

WEBデザイン

イベント企画・運営



株式会社 ナックプランニング

代表取締役 山田厚志(建設部門・総合技術監理部門)

〒454-0962 名古屋市中川区戸田三丁目1311番地 LIFAビル2F

TEL 052-309-7955 FAX 052-301-7982

E-mail nac-planning@nifty.com URL <http://nac.c.ooco.jp/>



日本工営株式会社

～ 誠意をもってことにあたり

技術を軸に社会貢献する ～

私たち日本工営グループは、「安全・安心な社会基盤の整備と豊かな生活空間づくりに価値あるサービスを提供し未来を拓く」というビジョンに基づき、グローバルなコンサルティング&エンジニアリングファームへと進化を続けてまいります。

日本技術士会 会員：715名

技術士登録数

部 門	登録数
総合技術監理部門	286
建設部門	605
機械部門	2
電気・電子部門	20
資源工学部門	1
上下水道部門	54
衛生工学部門	6
農業部門	54
森林部門	14
経営工学部門	2
水産部門	2
情報工学部門	12
応用理学部門	82
環境部門	35
合計	1,175



八千代エンジニアリング株式会社

代表取締役
社長
執行役員
名古屋支店長

出水重光
眞間修一

名古屋支店 〒460-0004 名古屋市中区新栄町2-9 スカイオアシス栄
電話：052-950-2150 FAX：052-950-2151

☆中部本部では、協賛いただける企業・団体を募集しております。協賛の申込みにあたっては、中部本部へご連絡いただくか、ホームページ「協賛団体募集要項」をご確認ください。

<http://chubu-ipej.sakura.ne.jp/>

広告以外に下記4社からも賛助会員として協賛していただいています。

株式会社5Dooors'

株式会社建設技術研究所中部支社

中部エレクトロニクス振興会

株式会社ヒラテ技研

編集後記

オンラインストレージでファイル共有しながら WEB 編集会議のみで本号が完成しました。全国大会がなくなり記事不足も懸念されましたが、皆様から多くの特集記事をいただき無事発刊にこぎつけることができました。コロナ禍での働きぶりの変容が広報誌を通じて共有化できればとの思いから今回の特集が起案されました。皆様にご参照いただければ幸いです。

(編集委員：井上 正喜 記)

「唯一生き残ることができるのは変化できる者である」、ダーウィンの言葉のように、社会の変化に対応するために、技術士同士が知恵を出し合い連携して活躍することが求められています。本号の特集投稿から、多くの技術士の方がテレワークやオンライン会議など、業務や社会の変化に機敏に順応し、新たな可能性まで見出されていることに大きな感銘を受けました。

(編集委員：武田 晃 記)

本号は、「新型コロナウイルス禍 特集」ということで多くの技術士の方から投稿がありました。こういった時期こそ、各自のご意見を発表する場として、この広報誌の重要性が再認識されたように思います。本号を読んで頂き、意見交換などして頂ければ、さらに、技術士同士の交流が深まるかと思えます。ご投稿頂いた方々、誠にありがとうございました。

(編集委員：高木 智 記)

【訃報】澤栗裕二氏ご逝去のお知らせ

長年技術士会の発展にご尽力いただいた澤栗裕二氏が9月24日に永眠されました。

本報6月号においては、電磁気工学に関する大変興味深い技術論文を寄稿いただきました。この記事が遺作の一つとなり、関連する電気・電子分野の若輩の道標となることかと存じます。ここに生前のご厚誼を深謝し、謹んでお知らせいたします。

(広報委員会一同 記)

技術士“ちゅうぶ”では、会員の皆様からの投稿記事を募集しております。投稿をご希望の方は、広報委員までお気軽にご相談、ご連絡ください。

中部本部 広報委員会委員

委員長 岡井 政彦 (電気電子)

副委員長 栗本 和明 (建設/総合) ○高木 智 (建設/総合)

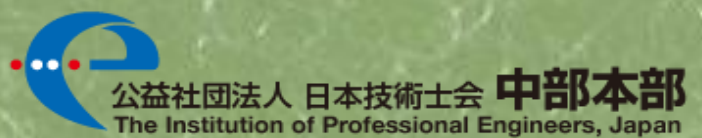
委員 西方 伸広 (機械) ○井上 正喜 (機械/総合) ○武田 晃 (建設)

小島 茂樹 (建設) 西本 テツオ (建設/衛生工学/農業/応用理学/環境/総合)

中山 久仁厚 (電気電子/総合)

(○：第6号編集担当者)

技術士 “ちゅうぶ” 2020年9月 第6号



〒450-0002

名古屋市中村区名駅五丁目4番14号花車ビル北館6階
TEL(052)571-7801 FAX(052)533-1305

URL <http://chubu-ipej.sakura.ne.jp/>

E-mail: g-chubu@asahi-net.email.ne.jp

発行責任者 広報委員長 岡井政彦